



政策

遠藤誠 議員 (WAKABA)

掛け値なしの 地方政府の先駆け

答弁…引き続き市政運営を担う決意を固めた

問 首長はオーラを発するポジションである。企業も民間の知恵者も自分の夢のために近づいてくる。私は藤井市長を信じる。新事業には必ず関心を寄せ伴走してきた。ねぎ、梨、いちごに関する事業など、1期目の動きを止めないために、2期目に足を踏み出さないか。

答 「信頼」「現場第一」「変革」の3つを軸に、市長として職員の先頭に立って市政運営に全身全霊を尽くしてきた。将来を見据えたグラウンドデザインを描き、それを実現するため、これまでのまちづくりを礎とし、引き続き市政運営の責任を全うする決意を固めた。



計画をコンサルなしで 自前で作ること

答弁…効果的、効率的な計画策定に努める

問 市の計画をコンサルタントを使わず、自前で作るという提案があるが、それが仕事の仕方として本当に効率的なのか。そして、働き方改革に適しているのか。計画の在り方をもう一度捉え直し、意味のある計画づくりを再考すべきではないか。

答 最小の経費で最大の効果が発揮されるように、計画の骨子など職員が検討すべき内容と外部委託することで業務の効率化やコスト削減が図られる内容を精査し、必要に応じてコンサルタントへの外部委託を検討するなど、効果的、効率的な計画策定に努める。



福祉

尾嶋一雄 議員 (TSUNAGU)

成年後見制度の利用促進を

答弁…制度の利用促進に向けてPR等に努める

問 成年後見制度利用促進基本計画の施策である権利擁護支援の地域連携ネットワークの各機能について、市や社会福祉協議会はどのような取組を行っているか。また、今後、新たに計画している取組はあるか。

答 4年度に開設した白岡市成年後見サポートセンターでは、成年後見制度の広報や市民からの相談受付を行ってきた。今後は、受任者調整や担い手の育成・活動促進など成年後見制度利用促進や後見人支援に取り組んでいく。



成年後見制度の案内パンフレット

防災 学校教育における 防災教育の取組状況は

答弁…実態や発達段階を踏まえた取組を行う

問 子どもたちが多くの時間を過ごす学校での防災・減災の取組は、自助を育むうえで重要である。現在、市内の小・中学校では、どのような防災教育を実施しているか。また、新たな取組として「ジュニア防災検定」の団体受験を取り入れてはいかがか。

答 自分の命を守る、災害から身を守る行動が取れるよう様々な訓練を実施するとともに、児童生徒の実態や発達段階を踏まえて「防災教育」を行っている。「ジュニア防災検定」については、先進自治体の事例を参考に研究していきたい。